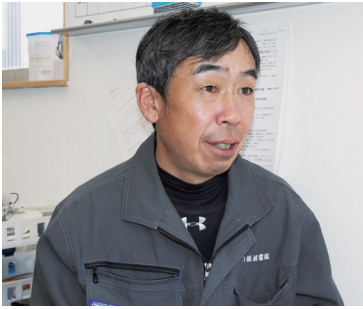


力強く歩んできた電気工事会社を さらに守り立て、後世へと紡いでいく



代表取締役
余慶 孝二



タレント
つまみ枝豆



有限会社 姫城電設

鹿児島県霧島市国分敷根 2624-1

URL : <http://www.kouden1220.com>

公共工事を中心に良質な仕事を果たし、30年近くにわたって信頼を紡いできた『姫城電設』。余慶社長は2年前に同社の代表となり、より高みを目指さんと、日々業務に励んでいる。本日はつまみ枝豆氏が同社を訪れ、「当社を後世に残していきたい」と意気込みを語る社長の事業への想いに迫った。

—— まずは余慶社長の歩みから伺います。

鹿児島県霧島市の出身です。学業修了後にホテルなど異業種を経験した後、名古屋に移り、知人が携わっていた電気工事の仕事に従事しました。遠方かつ住み込みの仕事ではありましたが、当時の私には「手につけたらいい」という強い思いがあったため、抵抗はありませんでした。実際に働いてみると、そちらには同郷の人が多く、親方も素晴らしい方と、とても良い環境の中で技術を身に付けることができました。

—— 人に恵まれて成長してこられたわけだ。その後はどのような道のりを？

2年ほど経ったころに母が体調を崩し、帰郷することになりました。それで地元の物流メーカーに勤めていたのですが、やがてその仕事を続けていくべきか、考えるようになり、その理由は、そのころには既に結婚して子どももいたのですが、ほとんど家におらず子どもを妻に任せきりにしており、「もつと家族との時間を取るべきでは」と感じていたこと。もうひとつ、「電気工事の仕事のほうがやり甲斐もあり、自分に合っているのでは」とも感じました。それで最終的に電気工事の仕事に戻ることを選びました。前職で仕事仲間だった先輩が立ち上げた仕事を手伝いはじめ、やがて個人事業

業として仕事が成り立っていきました。その中で大手企業や『姫城電設』とも縁ができた。仕事の幅も広がっていききました。—— 徐々に軌道に乗っていったのです。現在社長は『姫城電設』さんの代表を務めておられますが、どのような経緯があったのでしょうか。

現在役員を務める『姫城電設』の前社長が、私に目をかけて下さったのです。そしてある時、「もう70歳を過ぎたが継ぐ人がいないので任せられないか」と私に話して下さいました。迷ったところもありましたが、私自身、建設業界の現状を考えると、一人親方はますます働きにくくなるだろう、ならばしっかりと会社組織を作り、親方たちが働ける場を作る必要がある、と考えていましたから、お引き受けすることにしました。

—— なるほど！ 前社長がいかに社長に信頼を置いていたかが窺えますね。実際に会社を引き継いでみていかがですか。

やはり組織を運営する大変さがありますね。ただ、この会社は現在27期目と、長きにわたって歴史を紡ぎ、公共仕事をメインに請け負ってききましたから、なんとしてもこの信頼ある会社を次の世代に残していかなければ、との思いで誠心誠意仕事にあたっていきます。また、経理については妻が手伝ってくれるので、とても助かっているんです。妻はこの仕事以外にも、公私にわたらずと私を支えてきてくれました。妻があつてこそ今の私がありますから、本当に感謝しています。

—— 素晴らしい。是非とも御社の歴史をさらに伸ばしていただきたいと思えます。その中でどのような会社か、との展望

after the interview

「余慶社長の影響を受けてか、社長のご子息は幼少のころから建設関係の仕事に興味を持っておられたそう。今では学業を修了し、お父様と同じ道を歩み始めたのだとか。今後親子で一緒にお仕事をするのが楽しみです。これからもお体にだけは気をつけて親子共々頑張っていって下さい！」

つまみ枝豆
(タレント)



を描いておられますか。

私は従業員の数そのものにはこだわりはありません。それよりも「この会社で働いてよかった」と従業員に思ってもらえるような、働き甲斐のある会社になりたいと思っています。そして従業員が意欲を持って働くことで、お客様から「『姫城電設』のスタッフは良い仕事をするな」などとお褒めいただけるような、そんな誇れる会社にしたいですね。電気工事は、人々の生活に欠かせない明かりを灯すことで社会に貢献できる、素晴らしい仕事。そんな仕事に携われることを誇りに、今後もスタッフ一同、力強く歩んでいきたいと思っています。